
アナザーライフ～電腦世界での人生～

龍馬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アナザーライフ〜電脳世界での人生〜

【Nコード】

N8174A

【作者名】

龍馬

【あらすじ】

「お前夏休みどうせ暇だろ？ ネットゲやってみないか？」友達のそんな一言から少年のネットゲ生活がスタートする。青春まっさかりの高校生の夏休みをネットゲで過ごす少年の物語。

プロローグ（前書き）

皆さん、夏休みはネットゲで過ごしてみませんか？

……冗談です。街に彼女と買い物に行ったり、海行ったり、部活動頑張ったり、リアル生活を満喫してくださいね。

ブローグ

「お前夏休みどうせ暇だろう？
ネットゲやってみないか？」

ある夏の日。学校は終業式を終え、生徒達は沢山荷物を持って帰る者、前からコツコツと持って帰っていた者と様々だ。
そんな生徒達にまじり二人の少年は大荷物を持ちながら話していた。

「ネットゲ？」

「そう、まあ“オンラインゲーム”の事な」
額から汗を垂らしながら歩く二人の少年はゲームの話をしていた。

「それって金かかるんだろ？」

「いや、無料なんだよ。登録するだけ」

「登録？個人情報とかヤバイんじゃない？」

「大手の会社だからそんな事ねえよ」

——暫く歩き、少年達は別々の方向に歩いて行った。ゲームを勧められた方の少年は、家に帰ると荷物を一気に手から離し、自分の部屋にあるパソコンに向かった。

「ええ」と確か“アナザーライフ”だっけ」

慣れない手付きでマウスを操作し、デスクトップにある“インターネットエクスプローラー”を“ダブルクリック”する。あまりパソコンを使わない少年には通勤ブラウザ等は必要ないらしい。

インターネットを開き、某巨大検索サイトYAHOO。！に文字を入力する。（隠せて無いですね……）

「お、これか。なになに……なるほど、これをダウンロードして……解凍ファイル？オイオイなんじゃそりゃあ！？……あ、あった。で、次はID登録か——」

なんだかんだで少年はオンラインゲーム“アナザーライフ”をプレイ出来る状態にまで進めた。

「はあ、長かった」

少年はマウスを操作してデスクトップに新しく現れたハートマークのアイコンをクリックした。

プロローグ（後書き）

まあ、hack／／見てたら何となく……展開は違うと思います
……。

因みに作者は高校のある一年間、夏休み中ずっとネットゲをしていた
事がありました。

キャラクター決定！（前書き）

キャラクター名で、結構悩みますよね……

ベジータ争奪戦等が起きるくらい名前は重要です（笑

キャラクター決定！

「えーと、なにになに……キャラクター名を決めて下さい。だって？」
少年は今キャラクターの名前を決めている所だ。好きなアニメや漫画のキャラの名前を入力してみたが、重複していて悩んでいるらしい。

「ああ、クソツイライラするなあ！」

早く始めたいが、なかなか先に進めずもどかしくなるのは、ネットを経験した事のある人なら一回はあるだろう。少年は今まさに“それ”なのだ。

あまり厨っポイ名前にはしたくないが、ダサイ名前にはしたくない。ネタに走るのもいいが中々面白いのが無い。

「決めた！これだあ」

『マリモ』

何故か誰も使って無かったようなので、少年はこれからもう一人の自分となるキャラクターの名前を決定した。

「さあーて、やっと出来るぜ！……て、次はなんだ？」

名前の次に職業を選択する画面が出てきたらしい、数ある職業の中から少年はなるべく強そうな者を探す。

「ん」

“ファイター” 攻撃力と防御力が非常に高い。体力が多い。魔力が低い。魔法防御が低い。

「ファイターかあ、でも見かけが嫌だな。マッチョて……」

少年はカーソルを隣に当てる。

“魔法使い” 低レベルの内から複数攻撃を覚える。レベルアップ時のMPが上がりやすい。体力が少ない。通常攻撃が非常に弱い。

「うゝん……体力が少ないのか、直ぐ死んだら嫌だな。却下」
少年はカーソルを横に動かす。

“弓使い” 遠距離からの攻撃が可能。命中率が上がり安い。攻撃の隙が大きい。弓矢が無いと攻撃出来ない。

「弓矢が無いと攻撃出来ないか……却下」
更にカーソルを動かす。

“盗賊” 敵からアイテムを奪える。素早さが高い。連続攻撃が可能。回避率が高い。攻撃力、防御力が低い。体力が少ない。死んだ時の“デスペナルティー” が大きい。

「デスペナルティー？良くわからんけど……辞めとこう。次で最後か」

“銃剣士” 遠近どちらでも活躍出来る。魔法も少し使う事が出来る。防御アイテム装備不可。素早さ、回避率が低い。

「お、おおおお!!」

少年はパソコンに向かって叫んだ。

「カッケェー！」

赤い瞳に長い黒髪、背中に背負っている大きな刀。そして全身を覆う黒いマント、マントの切れ目からチラリと見える二丁拳銃。

「コイツだぁ！」

少年は銃剣士を選択した。

すると画面が変わり文字が出てきた。

『アナザーライフへようこそ』

するとディスプレイが真っ暗になり、そして再び画面が現れた時、そこはもうファンタジーの世界だった。

「うおゝスゲェ」

少年が景色に感動していると、突如近くにいた妖精の様なキャラクターが話かけて来た。

『ようこそアナザーライフへ。貴方にはこれからアナザーライフでの生き方を伝授するからしっかり覚えてね。あ、遅れたけど私の名前はピクシー族のピクよ。よろしくね』

少年はピクの話を進めて行く。

『まずは移動の仕方ね……それから装備の仕方。武器を装備しないと攻撃出来ないから気を付けてね』

「ほおほおなるほど」

少年は言われた通りに武器を装備した。しかし持っていた武器は木の棒一本で、剣も銃も持っていなかった。

「あれ、おかしいな？まあ最初だからなのかもしれないな」

少年は大して気にも止めず話を進めた。

『じゃあ——次は戦い方を教えるわ。着いてきて』

ピクは前方へ移動していった。

「お、やっとバトルかあ」

少年は先程覚えた移動方を駆使してピクの後を付けて行った。

キャラクター決定！（後書き）

早くも感想、ありがとうございます。これからも不定期ですが更新していきますので、よろしくお願いします。

初めての狩り！（前書き）

ゲームによって攻撃方法は違うので（クリックやキーボードか等）あえてそこは書いていませんが、ご了承ください。

初めての狩り！

「ハイ。ここが“狩場”よ」

ピクに案内され着いた場所は先程いた場所とは違いカタツムリや緑色をしたスライムの様な生物がウヨウヨとしていた。

「これが敵かあ」

「じゃあ早速貴方に“狩り”をしてもらうわ。……で攻撃よ」

少年はピクの指示通りにモンスターに対して攻撃を行なった。

少年の分身とも言うべき銃剣士の“マリモ”は初期装備の杖状の武器をモンスターに向けて振るう。

『2D』攻撃したモンスターの頭上に赤い数字が現れた。

「今の数字が貴方がモンスターに与えたダメージよ」

同時にピクが説明する。

今度は怒ったモンスターがマリモに体当たりを仕掛けた。

『2D』すると青い文字でマリモの頭上に数字が表示された。今度は説明されなくても分かる。自分が受けたダメージなのだろう。

ピクは先程の数字について予想通りの説明をした。

「モンスターを沢山倒せばレベルが上がるわ。レベルが上がらないと装備出来ない武器があるから気を付けてね。

……じゃあ、私が教える事はもうないかな。選別に“コレ”を上げるから頑張つてね」

ピクはアイテムを渡すと何処かに去って行った。

「ふい説明は終わりか……さて、と」

「ああつゝと待ったあ！」

大急ぎでピクが戻って来た。

「この島の名前は“ビギナーアイランド”て言うんだけど、この島には“レベル5”までしかいられないの。レベル5を過ぎたら“フオースアイランド”て島に強制送還されちゃうから気を付けてね」

それを告げるとピクは再び霧に紛れるかの様に消えて行った。

「……よし、今度こそ説明は終わりだ。まずは……“狩り”でもしてみるか」

マリモは近くにいたカタツムリに攻撃をしかける。怒ったカタツムリはマリモに体当たりをしようとするが、少年の巧みな操作でマリモは体当たりを避けて更に追撃を加える。

カタツムリは目に涙を浮かべながら土に還った。カタツムリの死骸は残らなかったが、代わりにコインとカタツムリの殻が落ちていた。

「よっし、この調子で行くぜ」

少年の操るマリモは次々とその場にいるモンスターを倒して行く。そして丁度10匹目を倒した時、マリモの頭上に

『レベルアップ!』

と表示された。これは説明しなくても分かるだろう……とにかく今より強くなったのだ。ダメージは全て回復しHPは最大値が少し増えた。

マリモは『レベル1』になったのだ。だが、HPが増えた事以外特別変わった事は無い。少年はまだ1だから、と大して気には止めていなかった。

しかしこれが、大半のネットゲにある“罨”であることを少年はまだ理解していなかった。

「さあガンガン行くぜ!」

マリモは片っ端からモンスターを狩りまくる。アクションゲームになれている少年はこの程度の反撃は軽く避けられるようで、ダメ

ージを受けずに狩っていく。
『レベルアップ!』

暫く狩り続け再びレベルが上がった。だがやはり先程と変わりはない。HPは増えたが与えるダメージや受けるダメージは変化しない。

「ちょっと飽きたな……奥へ行ってみるか」

少年は今いる草原の様な場所の奥へと突き進んだ。
ヴォーヴォー、バシyunバシyun、グギャアア!

少年が奥へと足を踏み入れると、様々な音が入り混じって聞こえてきた。

画面を見ると先程とは違う、小さな人型モンスターが大勢生息していて、その中の一匹がマリモに向かって来ていた。

カタツムリやスライムに比べると動きが速い、だが少年は焦らずに襲いかかるモンスターに攻撃をする。

『1D』モンスターの頭上から数字が表示される。モンスターは反撃に、手で持っていた棍棒でマリモを叩き付けた。

『5D』

「ゲ、さっきのより強いぞ」

マリモはモンスターに向かって攻撃を続けるが、此方の体力の減りが速く、少々焦っていた。

「くっそおお!」

マリモの攻撃でついに棍棒を持ったモンスターは土に還った。

「ふう……て、うおわわ!」

安心するのもつかの間、更に二匹のモンスターがマリモに向かっ

て来た。既にHPゲージが赤く光っているマリモには絶対絶命だ。

しかし、そんな時モンスター達の後方から矢が飛んで来た。

見事にヒットした矢にモンスターは怒り、ターゲットをマリモから変更して後ろを振り向いた。その瞬間更に二匹のモンスターに向かってそれぞれ二本づつ矢が飛んで来て、

『7D、7D』

『7D、7D』

二匹のモンスターを一瞬で鎮めた。

少年は矢の飛んで来た方向をジッと見つめる。すると矢を装備したキャラクターが走って来た。

『やあ、危ない所でしたね』

これがアナザーライフでの少年の初めての出会いだった。

初めての狩り！（後書き）

ご意見、感想、疑問お待ちしております。

やっと説明が終わったので、これからやっと書きたかった事が書けます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8174a/>

アナザーライフ～電脳世界での人生～

2010年10月17日01時49分発行